

主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善について  
「学習者主体の授業」の提案  
～令和5年度鹿児島県学習定着度調査を活用して（国語）～

義務教育課

調査を振り返って（小学校）

令和6年1月に実施した鹿児島県学習定着度調査の結果では、小5国語の平均通過率は68.5%で、このうち「知識・技能」は80.1%、「思考・判断・表現」は60.4%でした。出題数の増加（令和4年度より3問増）や大問1の出題形式の変更による難しさがありましたが、定着が期待される問題を確実に正答できるようになったと考えられます。一方、設問ごとに見ると、次の内容に課題が見られました。

「基礎・基本」の問題については、大問1(3)「熟語（小4）」の平均通過率が51.7%と低くなっていることから、当該単元のみでの学習にとどまらず、様々な言語活動を通して、辞書や辞典、インターネット等を利用して意味等を調べたり、文章中の表現から類題を作成・出題したりするなどして定着を図ることが大切です。

「思考・表現」の問題については、「事実と感想、意見とを区別して書く」など、自分の考えが伝わるように表現を工夫する」記述式問題の通過率が低く表れています。

特徴ある問題から

【小5 3 (5)】 平均通過率：43.3%

目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことができるかを問う問題

五、横山さんは、「3」調査結果から考えたこと（「1」「2」調査内容と結果）の「1」について分かったことなどをまとめて書きます。□に入る内容を、次の条件に合わせて書きます。

○ 「1」調査内容と結果「1」の「自分の意見や考えを取り上げて書くこと」。

○ 「2」調査内容と結果「2」の「自分の意見や考えを取り上げて書くこと」。

○ 「3」調査結果から考えたこと（「1」「2」調査内容と結果）の「1」について分かったこと。

※「自分の意見や考えを取り上げて書くこと」を、五十文字以上、八十文字以内でまとめること。また、調査結果から考えたこと（「1」「2」調査内容と結果）の「1」について分かったことについて書くこと。

※「自分の意見や考えを取り上げて書くこと」を、五十文字以上、八十文字以内でまとめること。また、調査結果から考えたこと（「1」「2」調査内容と結果）の「1」について分かったことについて書くこと。

※ 今回の調査結果を通して、公衆電話はなくてはならないものだと考えました。なぜなら、

課題の原因

文章を読み解く際、情報を的確に理解することができていない。また、自分の考えを記述する際、事実と自分の考えを区別して書き表すことができていない。

授業づくりのポイント

「書くこと」の学習過程は、次のとおりです。

- ・題材の設定、情報の収集、内容の検討
- ・構成の検討
- ・考えの形成、記述
- ・推敲
- ・共有

活動の中で、児童一人一人の状況からつまづいている学習過程を明確にし、一人一人の実態に応じて指導することが重要です。また、発達の段階に応じて、児童自身が学び方を自己調整する時間を確保する必要があります。

- 協働的な学びの中で、児童自身が主体的に学習を進め、「事実」と自分の「考え」を区別して書いているかなどの自分の課題に気付くことができるように、「文頭や文末にどの言葉を用いるか」などの書き表し方の観点などについて話し合ったり、記述したものを相互評価したりする場面を設定する。
- 学習者が目的意識と相手意識を明確に持ちながら主体的に取り組む言語活動を設定する。言語活動を行うことが目的にならないように留意する。
- 他教科等や実生活との関連を図り、自分の考えを書く機会を意図的に設定し、指導事項を意識した具体的な指導や称賛を行う。  
また、記述後は、文章を読み返し、構成や書き表し方などに着目して文や文章を整える習慣付けを図っていくよう、継続した指導を行う。

【問題を解決するための授業づくり】

本問題では、【報告する文章】の「2 調査の内容と結果」の「(1) 公衆電話はどのようなときに必要なのか」と「(2) 公衆電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか」の両方から、分かったことについて書くという場面を取り上げています。

「調べた結果」「調べて分かったこと」が自分の考えを支える理由になります。接続詞（「これらから、」「このように、」）や、文末表現（分かりました。）を、線を引いたり丸で囲んだりしながら、自分の考えとずれがないか確かめながら取り上げる根拠を明確にすることが大切です。

（類題：R5全国学力・学習状況調査 国語 大問2(4)）

## 調査を振り返って（中学校）

令和6年1月に実施した鹿児島学習定着度調査の結果では、中1国語の平均通過率は75.9%で、このうち「知識・技能」は74.1%、「思考・判断・表現」は77.6%でした。

中2国語の平均通過率65.6%で、このうち「知識・技能」は62.6%、「思考・判断・表現」は67.9%でした。

「知識・技能」の問題については、中1では大問1(3)「漢字の部首」に関する問題の通過率が35.9%、中2では大問1(6)「行書」に関する問題の通過率が37.5%と低く課題が見られました。

「思考・判断・表現」の問題については、中1では「書くこと」の「根拠を明確にしながらか、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する」の平均通過率が49.8%、中2では「話すこと・聞くこと」大問4(1)「発言の意図」の平均通過率が40.1%、大問4(3)「説明の構成」の平均通過率が40.9%と、2学年ともに「非連続型テキスト」を用いた問題に課題が見られました。

### 特徴ある問題から

【中1 3 (3)】平均通過率：40.1%

引用した部分に対する自分の考えを具体的に書く問題

大山さんは、【本の一部】を引用して、【大山さんの文章の下書き】Aの部分を書こうとしています。あなたならどう書きますか。以下の条件にしたがって書きなさい。

〈条件〉

- ①【本の一部】から引用して書くこと（引用部分は「 」を用いること）。
- ②【本の一部】の内容に対する意見を、大山さんの立場で述べること。
- ③七十文字以上百文字以内で書くこと。



【中2 1 (6)】平均通過率：37.5%

行書の特徴を理解しているかを問う問題

例題：R6全国学力・学習状況調査 大問4(3)



### 【問題を解決するための授業づくり】

書くことの問題については、話や文章の中に含まれている情報と情報とがどのように結び付いているかを捉えて整理したり、意見と意見を支える根拠を明らかにしたりすることが大切です。

行書については、行書の基本的な書き方についての理解や、小学校からの書写（楷書）の学習で用いる言葉の理解について、実際に文字を書いたり、書いた文字について話し合ったりすることが大切です。

### 課題の原因

- 読み手の立場に立って、考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかどうかを確かめたり、客観的に文章のよい点や改善点を見出したりする活動ができていない。
- 書写で学習したことをもとに、各教科等や日常生活において、目的や必要に応じて行書や楷書を選んで効果的に文字を書くことができていない。

### 授業づくりのポイント

【知識及び技能】には、次の内容があります。

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項
  - ・言葉の働き ・話し言葉と書き言葉
  - ・漢字 ・語彙 ・文や文章
  - ・言葉遣い ・表現の技法
- (2) 情報の扱い方に関する事項
  - ・情報と情報の関係 ・情報の整理
- (3) 我が国の言語文化に関する事項
  - ・伝統的な言語文化 ・書写
  - ・言葉の由来や変化 ・読書

これらの【知識及び技能】の指導事項と、「書くこと」「読むこと」「話すこと・聞くこと」の言語活動を関連付けながら、系統性を踏まえた授業を行うことが重要です。そして、これらの内容を各教科等の学習活動や日常生活に生かすことを目指す必要があります。

- 教師が提示する文章を読んで、表記や語句の用法、叙述の仕方、表現の効果などについて、よい点や改善点を話し合う活動や、そこの学習を踏まえて自分が書いた文章を捉え直して書く活動を設定して書く力を高める。
- 「（教師が提示した）作品のよい点や改善点を行書の特徴を表す言葉を使って説明しよう」など、学習課題の提示の仕方を工夫し、知識の理解の質を高めることを意識する。
- 1人1台端末を効果的に活用し、AIドリルや写真・動画、学習ログなどで知識及び技能の定着を図ることができるよう学習活動を工夫する。

■ 詳細な分析・説明について  
鹿児島学習定着度調査の分析や問題を活用した授業づくりの詳細については、二次元コードから、HPを御覧ください。

